

## 地域計画策定に係る地区座談会(七会地区) 議事録

七会地区(大字徳蔵、小勝、塩子、上赤沢、下赤沢、大網、真端)

1. 日 時 令和6年3月17日(日) 午前10時00分～正午
2. 場 所 七会町民センター1階「会議室」
3. 関係者の出席 農業委員3名、農地利用最適化推進委員3名  
認定農業者1名、新規就農者2名、地区区長6名  
一般及び地区内農家5名、多面交付団体5組織、  
中山間直払交付団体2組織
4. 関係機関の出席 常陸農業協同組合1名、茨城県県央農林事務所2名、  
茨城県農地中間管理機構1名
5. 事務局の出席 城里町農業政策課7名、城里町農業委員会事務局3名
6. 開 会
7. あいさつ 城里町農業政策課長
8. 地域計画について (城里町農業政策課より説明)  
(1) 今までの「人・農地プラン」から地域計画策定までの経緯について  
(2) 「地域計画」の策定について
9. 「人・農地プラン」における中心経営体について  
(城里町農業政策課より説明)
10. 質疑応答・意見交換

### (質疑応答・意見交換概要)

#### ○認定農業者兼中山間地域等直接支払交付金交付団体代表

##### ・座談会出席者へのアンケート

設問5「地域農業の話題や課題を教えてください」の設問について  
自分は選択肢⑧の荒廃農地予防を一番考えている。

実際のところなかなか大変で儲からないから、今年は作るか作らないかという田が多いように見られる。若い人だと1反歩作れば十分であり、買ったほうが安いというのが実態である。会議もそうだが、あと10年後、私も高齢になるが、やっぱりせっかく今回の座談会に来たんだから、前向きに、黙って帰るのではなくて、皆問題を抱えているので意見交換をした方がよいと思う。また役場としては、国に沿った方針でこういうものを計画しなくてはならないので、5年10年の計画なんでしょうけれども、地域計画を策定するのは本当に大変だと思う。関係機関の方(JA常陸)も本日座談会にいらしているが、JAの職員で本当に米が安くて大変と考えている人がどのくらいいるのか。本当に農家はみんな困っていると思う。JAや関係機関を交えてかっこいい会議でなくていいから、本音で本当にどうしたらいいか話し合いたい。

## ●城里町農業政策課

- ・10年後どうしていこうかと皆不安であると思います。自分も農地があるので同じような不安があります。担い手不足や高齢化などみなさんもあると思うので抱えている悩みとかを話し合いで共有していけたらと思います。地域計画を定める前提ではありますが、集まって今の私のところは「こういう状況」なんだということをお話していただいて、みんなで集まると「うちもそうなんだ」となったり、大規模な担い手がいて「やりましょう」という話になったり、この場所は今後どのように活用したらいいかなどこれら話し合いの中で出てくると思います。この話し合いで出した内容をどういう方向で導いていくべきかについて、役場が持っている知識や今回の座談会に出席いただいている関係機関にも出席いただいて、専門的な助言をいただいて、話し合いを行い計画を立てていきながら、問題の解決に近づけていければと思っております。

## ○多面的機能支払交付金活動組織代表

- ・多面的機能支払交付金団体を組織している。農地基盤整備されていなくて作りづらい箇所がある。県道の排水及び一般家庭の雑排水が水路に（農業用水路の中間に）流れ込むようになっているので、雨が降るたびにオーバーフローする。県道のU字抗よりも川から取り入れるU字溝の方が細いのに県道のU字抗を付けてしまったのでオーバーフローしている。オーバーフローしている箇所の水田は誰も作らず葦がたくさん生え誰も手入れできない状況になっている。そのような箇所についてまとめるのは難しいだろうが基盤整備を希望したい。基盤整備を行うには面積がどのくらい必要か知りたい。雑排水が流れ込む写真は撮っているので相談したいと思う。

## ●城里町農業政策課

- ・この件に関しては皆さん悩んでいると思います。水路より水田の方が低かったり畑が道路より低くて水が抜けないという問題は出ていると思います。増井地区は55町歩約17億で地元負担0で整備が始まりました。そういう事業もあります。両親の代が基盤整備をしてくれたから今があると思います。今やらないと農地の荒廃が進んでしまい、子供や孫の世代になってから耕作が出来なくなってしまう恐れがあります。この機会は初めて設けられたと思います。次回からはもっと小さくグループ形式でやっていくので、要望を集めていただいてこれからどうしていくか課題解決に向けて進めていきたいと思います。基盤整備は基本20町歩ですがモデル事業であれば少なくともできる事もあります。城里町では今までに事例がありませんが、いち早く手を上げるところが一番先にきれいになるので協力していきながらやっていきたいと思います。

## ○農業委員

- ・中山間地域等直接支払交付金団体を組織している。田が自分の地域。中山間地域等直接支払交付金団体に属していると果樹はNGと言われたが花桃（枝物）はどうか。また認定農業者の研修で話を聞いたが、農地中間管理機構に農地を一旦借

り上げてもらい農地中間管理機構において基盤整備を行うのはどうか。ある町は費用負担無く基盤整備を行ったと聞いた。その辺はどうなのか。

枝物については、JA 常陸では専属で3名付いて花桃は集荷から出荷までやってくれているようだ。花桃（枝物）を取り扱う場合、笠間営農経済センターにおいても業務をやってくれるのか。それとも今やっているところ（常陸大宮）に持っていく必要があるのか。

●城里町農業政策課

- ・中山間において果樹 NG と言われたというお話を伺いましたが、枝物については確認して後日回答したいと思います。

●城里町農業政策課

- ・基盤整備については本日県の担当者がおりませんので後日回答いたします。水田で枝物をやる場合は転作作物となるので交付金が出ると思います。基盤整備の金額については調べさせていただいて（田の基盤整備なのか、畑の基盤整備なのかいろいろあるかと思いますが）その点も調べまして後日報告できればと思います。

●城里町農業政策課

- ・枝物部会について JA 常陸の話がさきほどありましたが、県央農林事務所からもご意見をいただければと思います。

●茨城県県央農林事務所

- ・昨年まで常陸大宮地域農業改良普及センターにて花桃（部会）を担当していました。簡単にご紹介したいと思います。花桃の栽培は、基本畑が向いています。栗もそうですが水はけが悪いところは、根が成長せず花が付く前に枯れてしまいます。使わない水田を転用して花桃を作るときは土盛りしてなるべく地下水から遠いような形で整備しないと非常に難しいと思います。あと柳類（しだれ柳）はすぐ隣が田でも生育旺盛なので柳なら水田転作でも作れると思いますが、ただ比較的果樹と同じで、水はけの悪いところは向いていないので田も場所を選ぶと思います。何かあったら個別にご相談いただければと思います。

○多面的機能支払交付金交付団体兼中山間地域等直接支払交付金交付団体

- ・人・農地プランから地域計画への移行にあたり、今現在、農業の収益が低いのでいろいろ補助制度を利用していると思うが、地域計画への移行によって補助率や単価は上がる傾向にあるのか。また高齢化になった時に、誰が事務局や会計をやるのかというのも大きな問題である。高齢化により事務局が居なくて活用することは出来るけれども事務が繁雑になって活用を見送った話も聞いている。出来れば事務の簡素化をしていただければと思います。

●城里町農業政策課

- ・多面的機能支払交付金の内訳は、田 10a/3,000 円、畑 10a/2,000 円となっております。七会地区は5地区活用しております。七会地区は面積が若干大きくとれないので交付金は少なくなりますが、田も畑も利用できるのでぜひ活用をご検討ください。事務の簡素化については、確かに事務とお金を扱う方は大変だと思いま

す。どこかやってくれるところがあるといいとは思っていますが、その辺もよく考えながら今後対応したいと思います。

●城里町農業政策課

- ・今、補助の話がありましたが、現時点では多面的機能支払交付金、中山間地域等直接支払交付金、転作補助については、地域計画を策定する地域であることが要件として定められてはおりません。ただ、農水省が地域計画を進めるにあたって、補助金関係と地域計画を結び付けたいという傾向があり、これから補助金を受けるにあたって地域計画を策定していることが補助対象の要件になっていく可能性があることが予想されます。

11. 開 会